

2009年度

リカバリーサポート・ネットワーク 電話相談事業概要報告

特定非営利活動法人
リカバリーサポート・ネットワーク

代表理事 西村直之

リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)が、2006年4月に「ばちんこ依存問題に特化した電話相談」を開設してから、4年が経過した。2009年度(2009年4月～2010年3月)に寄せられた相談件数は1305件となり(表1)、件数は前年より約10%増加し、月平均108.8件であった。開設4年間の総相談件数は、4327件となっている。相談の88%は初回相談であり、この1年で新たに1149人が相談に繋がった。

相談件数の増加は、RSN電話相談窓口ポスター貼付の協力店舗の増加や、遊技関連団体や遊技情報提供サイトからのリンク、セミナー開催などを通じた知名度の向上などの結果と考えられる。

相談の内容は「やめ(させ)る方法」が最も多く、次いで「家族の接し方」、「地域の相談先」であった。ホールに対する苦情は約90件あった。相談者

のほとんどは、依存問題の相談電話であることを理解したうえで、相談してきているようである。

RSN電話相談窓口告知ポスターは、一部の協力・協賛機関への配布を除き、そのほとんどが全日遊連を経由して全国のホールに配布されている。このため、ポスター貼付店舗が増えると相談件数が増加し、一方で来客数が減少する秋から冬にかけては相談件数が減少するといった変動が生じている。全相談件数の51%がポスター経由であり、問題当事者(以下本人)からの相談では、76%がポスター経由であった(図1)。問題を抱える本人がホールで情報を得て、直接相談電話に繋がってもらった狙いは、成果をあげているようである。相談者の63%は本人(家族・友人26%)であり、依存関連問題の相談機関としては、きわめて高い本人比率となっている(図2)。

相談者の詳細を見ると、相談者の性別の内訳は男性48%、女性

41%で、対象者(問題を持っている人)の性別は男性65%、女性24%であった。開設当初より本人が直接相談に繋がる比率が高くなるにつれ、男性の比率が上昇している(家族の相談は、女性の方が多)。対象者の男女比にはあまり変動はみられない。対象者の男女比は、遊技参加の男女比と相関しているのではないかと推測している。

年齢分布では、相談者・対象者ともに30代が最も多く、40代、20代、50代と続いた(相談者、対象者ともに)。30代の相談が全相談件数の26%にのぼり、20代・30代を合わせると42%を占めている(図3)。ばちんこ・スロットの開始年齢は、男性は10代、20代で85%を占めていた。遊技参加者の年齢層に比例するものであろうが、若年・青年層の問題は就学・就労問題、債務問題、家族関係の問題などに容易に拡大しやすく、RSN相談電話の重要性を再認識する結果となった(図4)。女性の遊技開始

年齢は、20代にピーク(43%)があるものの、30代以降から開始した人も45%おり、性差に基づいた介入が必要であると考えている。

最近では、射幸性の低い遊技機の導入や「1円パチンコ」「5円スロット」といった低貸玉ホールの増加など、過度のめり込みが生じにくい遊技環境が拡がっており、その影響を把握するために2010年1月より、相談者から貸玉の種類、1回の遊技時間、1週間の遊技頻度、1カ月の遊技費について聞き取りを開始した(2009年度は、本人のみ211人より聞き取り)。貸玉の種類では、通常貸玉65%、低貸玉12%、両方21%であり、問題あるユーザーの多くは、通常貸玉を主としている傾向がみられた。低貸玉営業は過度のめり込みの抑止に効果をあげている可能性がある。

1回の遊技時間は、3時間以上が76%(6時間以上38%)であった。1週間の遊技頻度は、ほぼ毎日が50%、週3～4回が21%であった。1カ月の

2009年度リカバリーサポート・ネットワーク電話相談事業概要報告

表1 月別相談件数 (2009年度：1305件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2006年度	110	102	82	86	119	90	87	57	38	93	54	71	989
2007年度	72	68	52	50	66	93	72	56	33	46	63	175	846
2008年度	103	114	90	113	98	94	92	83	85	95	108	112	1187
2009年度	128	128	128	124	112	120	103	79	71	70	115	127	1305
総計	413	412	352	373	395	397	354	275	227	304	340	485	4327

図1 リカバリーサポート・ネットワークの相談経路

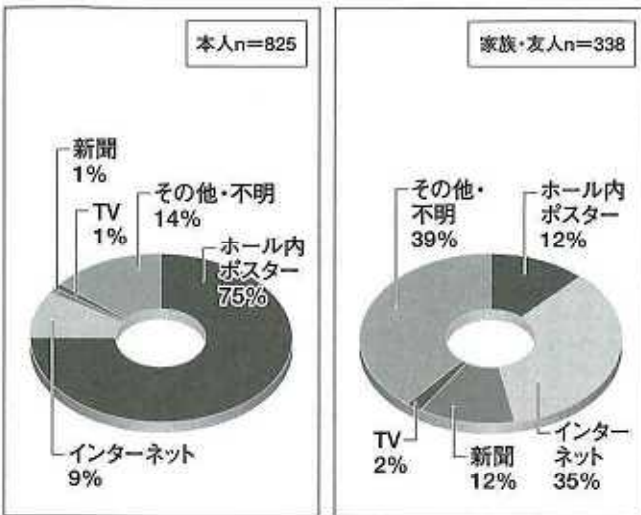


図2 相談者の内訳

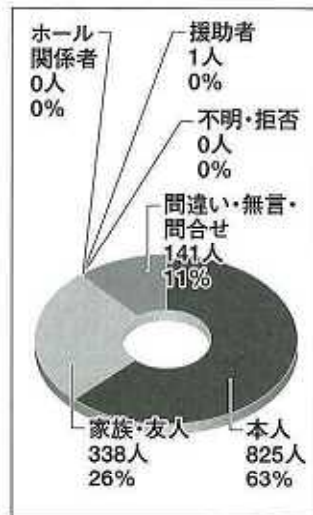


図3 相談者・対象者の年代層

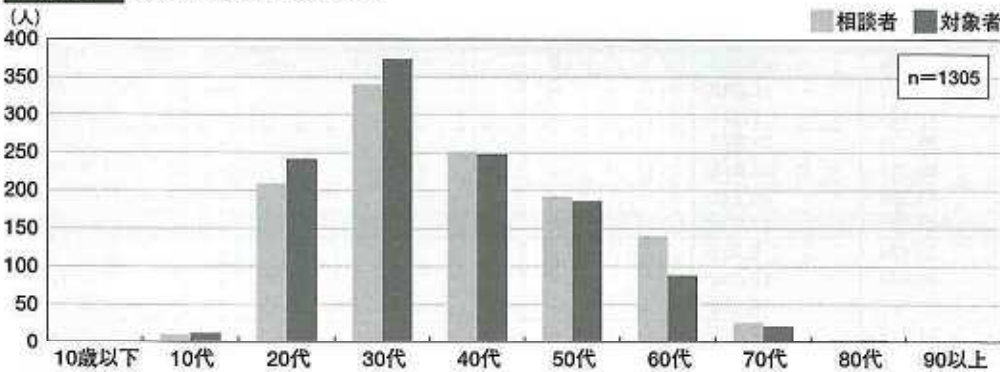
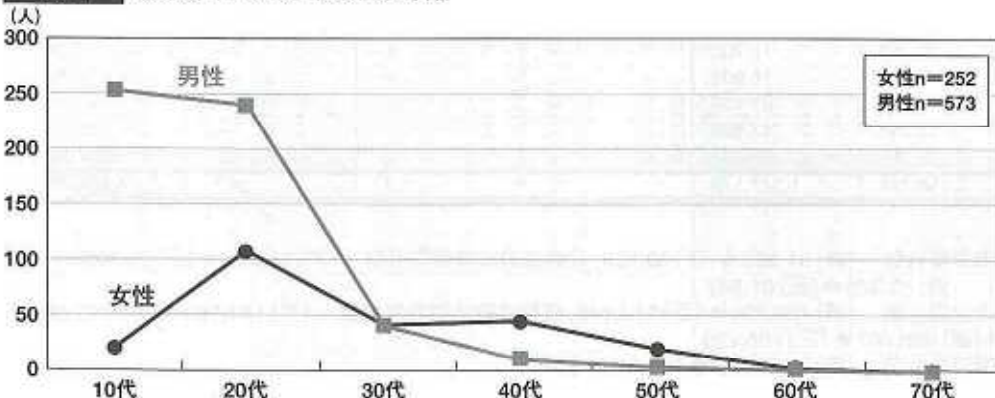


図4 ばちんこ・パチスロを始めた年齢



遊技費は、月5万円以上が73%であり、20万円以上が16%であった。低貸玉貸営業や貸金業法改正などで債務問題の発生が減少したとしても、娯楽時間の長時間化がライトユーザーに生じた場合、車内放置事故が発生するリスクが高まるおそれもあり、

今後どのように相談者が変化していくのか十分に注意して情報収集を継続したい。
相談者には、話を伺いながら問題の整理を手伝うことからはじめ、相互援助グループや地域の相談機関な

どの社会資源の紹介を行っている。RSN相談以前に相談経験がある人は34%に過ぎず、相談対応の印象が今後の問題解決援助に大きな影響を与えるため、事務的にならないよう配慮して、相談員は丁寧な対応をこころがけている。

RSNでは昨年10月に特定非営利活動法人の認証を受け、登記を完了させた。今後は、より公益性の高い社会貢献を目指し、相談事業の拡充、人材育成、啓発活動、キャンプリング問題の研究などの領域で活動を展開していく予定である。